

乗務員運用合理化 11月1日 を粉碎せよ!

==== 動労千葉 全支部で 総決起行動に突入 ====



80.10.28
No. 568

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八〇九(公衆)同室(22)七三〇七

!! 運用合理化攻撃粉碎し、81年3月ジェット決戦勝利へ!

この間、「日刊」でも明らかにしてきたように、乗務員運用合理化十一月一日強行策動が八年三月ジェット輸送延長攻撃にからめて動労千葉に対する組織破壊攻撃として、権力、国鉄当局、動労「本部」革マル一体となって襲いかかっている。われわれは、この攻撃に対し、去る十月十五日の第十回支部代表者会議以降、全支部、全職場から総決起した。

「本部」革マルの裏切りと屈服を弾効し、11・1運用合理化粉碎へ総決起

第十回支部代表の決定にふまえ、11・1乗務員運用合理化強行実施粉碎にむけて、①各支部職場集会、②10・19三里塚、10・21国際反戦闘争への決起、さらには、③団体交渉の強化をもって、国鉄当局と真向から対決するための要求づくりなど全支部・全職場から総決起体制をもって闘い抜いてきた。

今日、「本部」革マルの乗務員運用合理化に対する裏切りと屈服の実態は、日に日に全国の動労組合員の前に明らかになりつつある。

「本部」革マル反動分子の唯一最大の目的こそ、国鉄三五万人体制に卒先協力・屈服することをもって、全国の国鉄労働者を当局に売り渡し、新幹線と東京において自分たちだけがセクト的に生きのこることであることがますます明白となってきた。

しかも、「本部」革マルは、東京三局において乗務員運用合理化11月1日実施などといった、実際には「55・10」と同時実施を認め、現に東京の大半の電車区において10月1日以降すでに実施されているのだ。

そして、国鉄当局に対しては、千葉における乗務員運用合理化「11月1日実施」を強くせまっているのである。

当局に合理化を強要する労働組合がかかってあったらどうか!
このような「本部」革マルの反労働者性、反動性を怒りを込めて弾効し、乗務員運用合理化11月1日強行実施策動粉碎のため全支部の総決起体制を一層堅持し闘い抜こう。

「本部」派銚子支部結成の動きに 対し反撃

「本部」革マルは、乗務員運用合理化攻撃に反労働者の・反動的に協力・屈服する一方で、わが動労千葉に対しては、国鉄当局と一体となって運用合理化を強要しつつ、銚子支部に対する組織破壊攻撃をなりふりかまわず強めてきた。

すなわち、去る十月二十日開催された銚子支部執行委員会において「十月二十七日臨時支部大会を開催し、一定の方向を決定する。」なる決定が行われたことをもって「本部」側「支部」結成という一部分子の動きが露骨化したのである。

こうした「本部」革マルの銚子支部に対する組織破壊策動をわが動労千葉は、11・1乗務員運用合理化攻撃と基を一つにした攻撃であるにとらえ緊急に十月二十三日以降三日間の銚子オルグを設定し、全支部組合員・活動家の参加をもって銚子・千葉駅ホーム詰所における連日にわたる説得・激励・オルグを展開した。

そして、十月二十六日には、全支部より七〇名の動員をもって、銚子運転区でのオルグと激励集会をもちとり、「本部」革マルの組織破壊策動に大きな打撃を与えたのである。

われわれは、この間の乗務員運用合理化粉碎・組織破壊策動粉碎の総決起総行動の体制を一層堅持し、さらに国鉄当局・「本部」革マル一体となつた攻撃に対決しつつ、10・31狭山闘争を闘い抜き、11・1乗務員運用合理化強行実施粉碎へむかって闘い抜こうではないか。

10.31
狭山差別裁判糾弾東京高裁有罪判決六ヶ年糾弾、
再審要求中央総決起集会
一九八〇年十月三十一日十三時
於 明治公園